

# 開かれた学校を目指した Web コミュニティ

お茶の水女子大学院 人間文化研究科 高橋 いづみ (e-mail:izumi@tas.is.ocha.ac.jp)

## 1 はじめに

近年、子どもの多様化や社会の変化にともない、これまでの学校や教師の在り方の見直しが提言されている。それとともに、児童生徒の多様性を生かした柔軟な学級経営、教職員の協働による創造的で特色ある学校づくり、家庭・保護者の連携による開かれた学校づくりなど、児童生徒の特性、地域の実態、保護者の要求等を積極的に組み込みながら、自主的・自律的に教育活動を展開していく学校づくりへの期待が高まっている。また、依然として多発している教育問題の原因を理解し解決の指針を得るためにも、学級集団や教職員組織および学校をとりまく地域・家庭、さらには教育制度などに関する分析と検討が強く求められている。<sup>[1]</sup>

このように学校を取り巻く環境がより複雑になる一方で、学校に求められる役割は非常に多く、「教師や学校の抱え込み」も問題になっている。そこで本稿ではこれらを背景に、「教師や学校の抱え込み」を克服し、保護者や地域の人々にも学校教育へ参加してもらい、「支え合う学校」、「学び合う学校」、「開かれた学校」へと改善していくことを志向したシステムを提案する。

## 2 「開かれた学校」を目指して

### 2. 1 なぜ学校を開くのか

近年、多発している教育問題を学校・教師だけで解決するのは難しい。学校と家庭・地域社会が一体となって考え、その対策・対応を具体化するときである。学校の教育内容・方針を保護者や地域の人々に開いて、子供の問題状況についての認識を深めてもらい、子どもの教育についてそれぞれの役割や協力すべきことを明らかにし、よりよい教育を目指す必要がある。

中央教育審議会は学校・家庭・地域社会の役割と連携について述べ、以下のように学校運営の基本的な視点として「開かれた学校」を提言している。

社会に対して「開かれた学校」となり、家庭や地域社会に対して積極的に働きかけを行い、家庭や地域社会とともに子供たちを育てていくという視点に立った学校運営を心がける。

また保護者や地域住民等は、各学校の教育課程や指導の状況等に関心を持ち、学校の取組に積極的にかかわることが求められるとも提言している。<sup>[2]</sup>

### 2. 2 学校の何を開くのか

学校、家庭、地域社会が一体となった教育を進めるためには、学校がどのような教育をしようとしているのかを共通理解する必要がある。よって学校の教育課程を開くことは不可欠である。また学校の教育活動を実際に見てもらったり、教育活動の様子を発信していくことも重要である。さらに、目標や方針の立てっばなしに終わるのではなく、その経過や結果の状況についても開いていかななくてはならない。また、学校の施設や設備を開くことも求められる。

### 2. 3 学校を誰に開くのか

生徒をよりよく理解するために、学級の枠をはずし教師間で情報を共有する、つまり学校を教師に開くことが重要である。また学校は生徒たちのためであるから、当然ながら子供たちに開かれていることが必要である。そして、学校は家庭や地域社会と一体となって教育活動を進めるのであるから、保護者や地域の人々に開かれていることが求められる。

### 2. 4 学校をどのように開くのか

開かれた学校では、情報を一方的に発信するのではなく、保護者や地域の人々も情報を発信するという双方向性が必要である。よって本研究では、学校の教育活動の様子をホームページで発信し、保護者、地域の人々も教育活動に参加し、意見の交換や授業補助等、積極的に学校活動へ参加できるシステムを提案する。

### 2. 5 学校を閉じることはないのか

開かれた学校づくりは期待されているが、一方で、その過程において危機管理を徹底しなくてはならない。安心して安全に学校を開くことができるようにするためには、その努力が必要である。個人情報の守秘と安全管理、安全確保が不可欠である。

## 3 システムの提案

### 3. 1 Web コミュニティ「みんなの広場」の提案

ホームページ「みんなの広場」を開設する。教師、生徒、保護者、地域の方々が個別に Web ブラウザを介してホームページにアクセスし、リアルタイムで学校の情報を閲覧することができる。以下、「みんなの広場」で閲覧することができる内容をあげる。

- ①教育目標 … 教育目標の掲示
  - ②教育活動 … 教育活動の報告
  - ③カレンダー機能 … 学校行事や月の予定等の配信
  - ④メール機能 … 管理人に対するメール送信
  - ⑤教師のページ
  - ⑥生徒のページ
  - ⑦保護者のページ
  - ⑧地域の人々(大学生)のページ
- } 詳細は  
3. 2 へ

教師、生徒、保護者、地域の人々(大学生)が閲覧できる個人ページについては個人 ID を設け、閲覧できる人を限定する。その内容については、3. 2 で詳しく述べる。

### 3. 2 各ページの構成

本研究では、教師が保有している生徒の個人情報を教師間で共有し、また生徒や保護者も生徒個人の情報に関して閲覧、書き込みできるシステムを設計する。「生徒の生活の様子はどんなか?生徒は何を思っているのか?家庭の意見は?」等の情報共有を目指す。ま

た、学校から情報を一方的に伝えるのではなく、保護者が学級担任のアカウントビリティに対する評価を、アンケート形式で回答し、結果を自動的に集計するシステムも提案する。

#### (ア) 教師のページ

教師全員が同一データを共有し、生徒、保護者に関するデータ全てを管理することができる。ただし、管理者ページ (d.) は管理者のみ閲覧できる。

- a. 掲示板 … 教師間で連絡事項を把握する
- b. 教科のページ
  - ・ 指導案のページ<sup>[3]</sup>
  - ・ オンライン小テストのページ<sup>[4]</sup>
- c. 生徒の個人情報のページ
  - ・ 成績のページ … テストの成績の管理、閲覧
  - ・ 対生徒のページ … 生徒との連絡ノート  
生徒の活動日記の閲覧、コメント記入機能
  - ・ 対保護者のページ … 保護者との連絡ノート  
保護者との連絡帳的役割、コメント閲覧、記入
- d. 管理者ページ
  - ・ 保護者からのアンケート結果の閲覧  
ホームページ管理人のみが閲覧できる。アンケート結果を各教師のみにフィードバックし、各教師の生徒、保護者への対応改善等に役立てる。

#### (イ) 生徒のページ

自分自身の情報のみ閲覧、記入することができる。生徒自身以外に教師、保護者も閲覧することができる。

- e. 教科のページ
  - ・ 授業のページ<sup>[3]</sup>
  - ・ オンライン小テストのページ<sup>[4]</sup>
- f. 個人情報のページ
  - ・ 成績のページ … テストの成績の閲覧
  - ・ 活動日記 … 学校での活動報告のページ
- g. お茶ひろば … 対大学生<sup>[5]</sup>
  - ・ チャット、ホワイトボード

#### (ウ) 保護者のページ

自分の子供の情報のみ閲覧、記入することができる。教師評価のページ (i.) は匿名性を考慮し、管理者以外の教師は直接閲覧できないようになっている。

- h. 個人情報のページ
  - ・ 生徒の成績のページ … テストの成績の閲覧
  - ・ 生徒の活動日記 … 生徒の活動日記の閲覧
  - ・ 対教師のページ … 教師との連絡ノート  
教師に伝えたいことや質問したい内容を入力する。教師からの返答を閲覧することができる。
- i. 教師評価のページ
  - ・ 教師に対する評価のページ  
定期的に、教師のアカウントビリティに対する評価をすることができる。アンケート形式で保護者の意見に近いものを選択肢の中から選んで回答する。結果は自動評価され管理人に送信され、管理人のみ結果を閲覧することが出来るので、自由に意見を述べることができ、結果は教師ごとにフィードバックされる。

#### (エ) 地域の人々(大学生)のページ

- ボランティアの大学生が参加する。
- j. お茶ひろば … 対生徒<sup>[5]</sup>
    - ・ チャット、ホワイトボード

### 3. 3 システム実装

今回構築したシステムは、サーバーには Windows 2000 Server と Solaris9 を使用し、Web サーバーには IIS 5.0 と Apache2.0、サーバー側エンジンには Tomcat4.1、RDBMS には SQL Server 2000 を使用した。クライアント側は Windows 2000 の Internet Explorer 6 と Netscape 7 で動作確認をした。

システム作成には Java 言語を採用し、研究開発には JBuilder 9 を使用した。指導案、オンライン小テスト、お茶ひろばは、先行研究<sup>[3]</sup><sup>[4]</sup><sup>[5]</sup>の結果を取り入れて統合し、共通のインタフェースを持つシステムにまとめた。

### 4 システム評価と考察

本システムをローカルな環境で稼働させ、数名の中・高教員に試用してもらい評価を行った。生徒に関する情報が、「みんなの広場」に集約されていることで、情報管理がしやすく、教師の作業効率の向上に繋がるという評価を得た。しかし一方で、オンライン小テストや教師のアカウントビリティに対する評価で自動生成される所見例の内容についてコメントの種類を増やす等の改善が求められている。

また、保護者に関しては、自分の意見を発言する場ができ、学校活動に参加しているという意識が高まるであろうという意見も得られた。

### 5 まとめと今後の取り組み

これからの学校は、問題解決の取り組みを積極的に展開し、学校が家庭や地域社会にとって垣根の低い開かれたものとなるように努める必要がある。今までは学校から一方的に情報が発信されるだけであったが、本研究で実践した教師のアカウントビリティに対する保護者の評価を教師にフィードバックすることで、より良い学校活動へと導くことができると考える。

今後も引き続き、協力していただいている本校の附属中学校と連動しながら、教師のアカウントビリティに対するアンケート内容、オンライン小テストや指導案の内容を検討し、試験を重ねた上でシステムを改善させていきたい。また、より多くの人々がホームページを閲覧し、教育活動に参加できるように、見やすく親しみやすいインタフェースに改良していきたい。

### 参考文献

- [1] 鳴門教育大学：「学校改善」  
<http://www.naruto-u.ac.jp/>
- [2] 中央教育審議会：保護者や地域住民との連携・協力について(答申)、2003
- [3] 社本 恵美子：遠隔ティーム・ティーチングにおける教育支援システム、お茶の水女子大学修士論文、2000
- [4] 吉田 美穂子：中学校情報教育における習熟度評価、お茶の水女子大学修士論文、2002
- [5] 清水 彩世：グループウェアを核とした CSCL の試み、お茶の水女子大学修士論文、2002
- [6] 武藤 隆、澤本 和子、寺崎 千秋 編著：21世紀を生き抜く学級担任、ぎょうせい、2002